

令和6年度 学校経営計画

学校番号	58	学校名	静岡県立掛川工業高等学校	校長名	中村 博志
------	----	-----	--------------	-----	-------

1 スクール・ミッション（校訓 誠実勤勉）

中東遠唯一の工業高校として「ものづくり」を軸としたさまざまな教育活動を地域及び、産学官と連携することを通して、生徒の多様な進路に対応するとともに産業界の進歩発展に貢献しうる創造性豊かな技術者の育成を目指す。

2 目指す学校像

(1) スクール・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
「中東遠地区唯一の工業専門高校」として次の人を育てます。 ○高度な専門知識の修得を通し、技術や社会の変化を理解し、学び続け、成長し続けようとする人。 ○多様な学びの場を通して、他者の価値観を尊重し、認めあい、協働して物事を解決できる人。 ○工業教科による専門技能と普通教科による幅広い知識を基にした思考力、判断力を活かし、社会や産業界でリーダーとなる人。 ○ものづくりや工業技術の活用を通して課題を解決し、新たな物や価値を作り出し、より良い社会を創造する人。 ○地域社会・産業界との連携、課題発見と解決への模索を通して、地域への理解を深め、貢献しようとする人。	「ものづくりはひとづくり」の学校として次の教育を行います。 ○授業のみならず、ホームルーム活動、学校行事、部活動においても、議論し、協力し、発信する多様な学びの場を設ける。 ○工業技術基礎、実習をはじめ工業・科学技術の基本の修得を通して、自らの可能性を考え自己理解を深める教育課程を編成する。 ○専門性を高め、高度な検定資格を目指して必要な専門科目、選択科目を置き、学びを深める教育課程を編成する。 ○「課題研究」を探究的・体験的活動の集大成と位置づけ、そこで自己と向き合い地域社会、産業界と連携した学びを行うための教育課程を編成する。	「なりたい自分に会いに行く」学校として次の人を求めています。 ○ものづくりや工業・科学技術に関心がある、または、本校でやりたいことを探したいと考え、自ら学ぶ意欲を持っている人。 ○ボランティアや地域と関わる活動に関心があり、自ら進んで人と関わるなど、仲間や地域、産業界と共に学びたいと考える人。 ○基本的な生活習慣が確立しており、基礎的な学力を有し、工業という新たな学びと向かい合う力をもつ人。

(2) スクール・ポリシー具現化の柱

- ア 授業内容及び評価方法の改善を通し、生徒の基礎的な学力及び、技術・技能の定着を図り学び続ける人の基礎を作る。
- イ ICTの効果的な活用を行い、あらゆる学校教育活動において、協働して課題を解決する工業高校の生徒の「主体的・対話的で深い学び」の充実を図る。
- ウ 計画的なキャリア教育と個に応じた適切な進路指導を推進し、よりよい社会を作るための生徒の進路実現を図る。
- エ 社会の実情に即した生徒指導の在り方及び、課題研究をはじめとした教育活動において地域との連携を検討・実践し、豊かな人間性を持ち、地域に貢献しリーダーとなる人を育てる。
- オ 地域におけるものづくり及びその教育の魅力拡大に寄与する教育活動や広報啓発活動を検討・展開する。
- カ コミュニティスクールを通し地域や保護者等との協働を図り、信頼される学校づくりを推進し、生徒が校内において健康で安全・安心に授業や諸活動に取り組むことができる教育環境を整える。
- キ 「チーム掛工」を構築し、学科・教科・分掌を超えた横断的な教育活動と業務の平準化・効率化を推進し、心理的安定感のある職場環境づくりを推進する。

3 本年度の取組（ゴシック体は重点項目）

様式第 1 号

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	新学習指導要領に即し、 新工学科において生徒の基礎的な学力及び技術・技能の定着を図り学び続ける人の基盤作り	・定期テストや基礎力診断テスト等の結果を活用するための機会を設け、生徒が伸ばすべき学力を学科・学年で共有する。 ・各工学科・教科の学習課題を精査し、生徒の実態に即した適正な課題を設定する。	・基礎力診断テストにおいて学年の 60%以上が学習到達度 C1 以上。 ・「授業のある日は授業以外で 1 時間以上学習に取り組んでいる」と答える生徒 80%以上。	教 務 課 進 路 課 各工学科 各 教 科
		・観点別評価を踏まえた授業及び学習評価を実践するとともに、教育活動改善推進委員会を中心に全校で実践結果を検証する。 ・各単元で身に付ける知識・技能の具体化・可視化を進める。 ・必要とする資格・検定等の周知、及び難易度の高い資格・検定等の受検意欲を喚起する声掛けを組織的・計画的に行う。	・観点別評価のルーブリックを踏まえた授業及び評価を実践している教員 100%。 ・「各授業の目標と自身の取り組む課題がはっきりしている」と答える生徒 80%以上。 ・自身が取得可能な資格・検定について理解している生徒 100%。 ・卒業時の生徒の国家資格・試験における取得・合格者率 60%以上。	教 務 課 各 教 科 各 学 科
イ	I C T の活用と「主体的・対話的で深い学び」の充実	・各教員が教科・科目の特性に合わせて一人一台端末を効果的に活用できる授業改善、及び教育環境整備を行う。	・ICT を活用した授業に取り組んでいる教員 100%。 ・一人一台端末の効果的な活用に資する授業公開を 1 回以上実施。 ・授業を参観した教員 100%。	教 務 課 広 報 情 報 各工学科 各 教 科 事 務 部
		・ホームルーム活動、学校行事、部活動等で対話的で深い学びの場面を設定する。	・授業以外で生徒が議論、協力、発信する場面を設定した教員 80%以上。	
ウ	計画的なキャリア啓発と個に応じた適切な進路指導の推進	・学科・学年・分掌が連携し 3 年間を見通したキャリア啓発活動を企画・実践する。 ・キャリアパスポート、ポートフォリオを有効活用し、各生徒の希望や適性に応じた進路指導を推進する。	・「生徒の希望や適性を生かした進路指導、進路相談をしている」と答える生徒・保護者 80%以上。	進 路 課 各 学 年
エ	豊かな人間性を持ち地域や産業界でリーダーとなる生徒の育成	・地域社会や産業界のリーダーとなるため、「明るい挨拶」「整った身だしなみ」「時間厳守」等の指導行う。 ・支持的、支援的で統一感のある生徒指導を実践するため、生徒指導内規等の見直しや学年・学科間の調整を継続的に行う。	・準備を終えて授業・実習に臨む生徒 100%。 ・「挨拶や身だしなみの指導に納得できる」と答える生徒・保護者 80%以上。 ・自身が守るべきルールについて考えた生徒 80%以上。	教 務 課 生 徒 課 各工学科 各 学 年
		・各生徒が能力・適性・関心等に合わせて主体的に参画できる教育活動を検討・実践する。 ・教育活動の充実を図り必要な外部資源と連携するために担当窓口を設定し積極的な活用を図る。	・「学校生活が充実している」と答える生徒 80%以上。 ・「掛工へ入学してよかった」と答える 3 年生 90%以上。 ・生徒が参加した学校改善プロジェクトの継続実施。 ・各工学科で一つ以上の外部機関等と連携した課題研究・実習の設定。	事 務 部 各工学科 各 教 科 各 分 掌 各 学 年 各委員会 各部活動

様式第 1 号

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
		・読書啓発活動を通して、各生徒が読書に取り組んだ軌跡を振り返る機会を設ける。	・1 カ月（読書週間含む）に 2 冊以上の本を読んだ生徒 50%以上。	図 書 課 各学級担任
オ	「ものづくり」の 魅力拡大に寄与 する 教育・広報啓 発活動の展開	・「ものづくり」の魅力拡大に寄与する教育プログラムを研究する。 ・必要に応じた適切な学校説明会等を実施する。	・小、中学生が「ものづくり」を体験し魅力を感じる教育プログラムの開発と小・中学校、地域での実施。 ・講座や学校説明会等に参加した児童生徒及び保護者数延べ 1,000 人以上。	管 理 職 各工学科 広報情報 ものづくり室
		・出前講座、説明会、巡回展示等の充実を図る。 ・各種広報ツールを活用し、「ものづくり」を含めた工業高校の教育活動と魅力を迅速に発信する。 ・課題研究発表会を中学生、地元へ公開する。	・出前講座、説明会、巡回展示他、広報活動の検証と実施。 ・新しいホームページの立ち上げと週あたり 3 回以上の更新。 ・学校公式 Instagram の投稿発信 300 件以上。	広報情報 全教職員
カ	生徒・教職員が 安全・安心に授業や 諸活動に取り組む ことができ、地域や保護者から信頼される学校の教育環境整備	・「新生徒指導提要」による支持的・支援的生徒指導を基盤とする教育活動を展開する。 ・担任、教科担当に加え、関係教職員が生徒の状況を見取り、教育相談や特別支援教育などと連携し、生徒の心身の健康に配慮した支援体制を構築する。	・「校内に悩み事などを話せる（相談できる）教員や仲間がいる」と答える生徒 75%以上。 ・学校全体で 1 日あたりの欠席 6.0 人以下、遅刻 2.0 人以下、早退 1.0 人以下。 ・支持的・支援的な生徒指導に対する研修の実施。 ・「学校は感染症対策等に配慮して教育活動を行っている」と答える生徒 100%。	教 務 課 教育相談室 保健環境課 職員研修 全教職員
		・清掃活動や不用品の計画的な廃棄等を通じて、校内の美化と整理整頓を進める。 ・校内外の資金の適正な執行と効果的な活用により、校内の整備を進める。	・「校内が安全に整備、整頓されている」と答える生徒・保護者 80%以上。	事 務 部 保健環境課 各工学科 全教職員
		・効果的で可視化された防災・安全教育を企画・実践する。	・防災訓練の年 3 回以上実施。 ・日常の振り返りに基づく安全教育の毎月実施。	総 務 課 各工学科 各 学 年
キ	学科・教科・分掌を超えた 業務の 平準化・効率化の 推進	・生徒下校時間（午後 7 時半）、職員退庁時間（午後 8 時半）を設定する。 ・分掌業務を 4 部に再編し、各種委員会を統廃合する。 ・各学科・教科・分掌が、業務の平準化・効率化につながる業務改善・業務分担を検討する。 ・業務に支障がない限り、積極的に休暇を取得できる雰囲気を出出する。	・一人当たりの年間時間外在校時間 20%削減。 ・各学科・教科・分掌で業務の平準化又は効率化に向けた提案 1 件以上。 ・一人当たりの年間の休暇取得時間 100 時間以上。	管 理 職 各工学科 各 教 科 各 分 掌 各 学 年 事 務 部